

岩手山の火山活動解説資料（令和3年12月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1、図2-①⑤）

柏台監視カメラによる観測では、黒倉山山頂の噴気は10m以下で経過し、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。今期間、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

・ 地震や微動の発生状況（図2-②～④⑥）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 岩手山 山頂部から黒倉山周辺の状況（12月3日）

- ・ 柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約8km）の映像です。
- ・ 注1）大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに柏台監視カメラで観測されます。
赤破線が大地獄谷の位置を示します。

黒倉山山頂の噴気は10m以下で経過しました。
岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act/doc/monthly_vact.php）で閲覧することができます。

今回の火山活動解説資料（令和4年1月分）は令和4年2月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

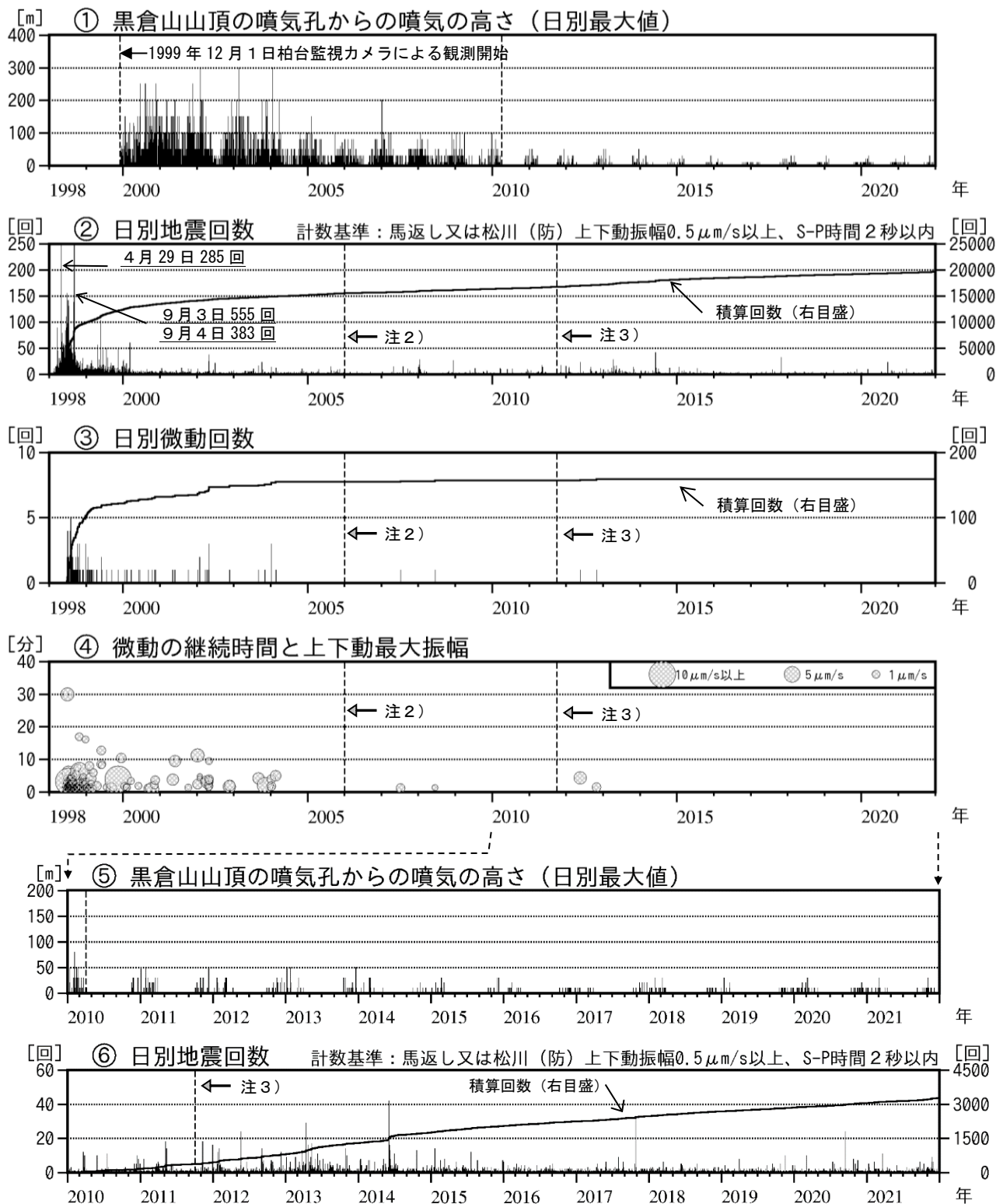


図2 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2021年12月）

- ・①⑤2010年3月までは黒倉山のみ観測値を、2010年4月1日以降は岩手山全体の観測値を示しています。
- ・②～④計数に使用した観測点は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。
 観測開始 1998年 1月1日～東北大学松川観測点〔振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内〕
 注2) 2006年 1月1日～焼切沢観測点〔振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内〕
 注3) 2011年10月1日～馬返し観測点及び防災科学技術研究所松川観測点〔振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内〕
- ・②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。
 （1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

各観測データに特段の変化はみられず、静穏な状態で推移しています。

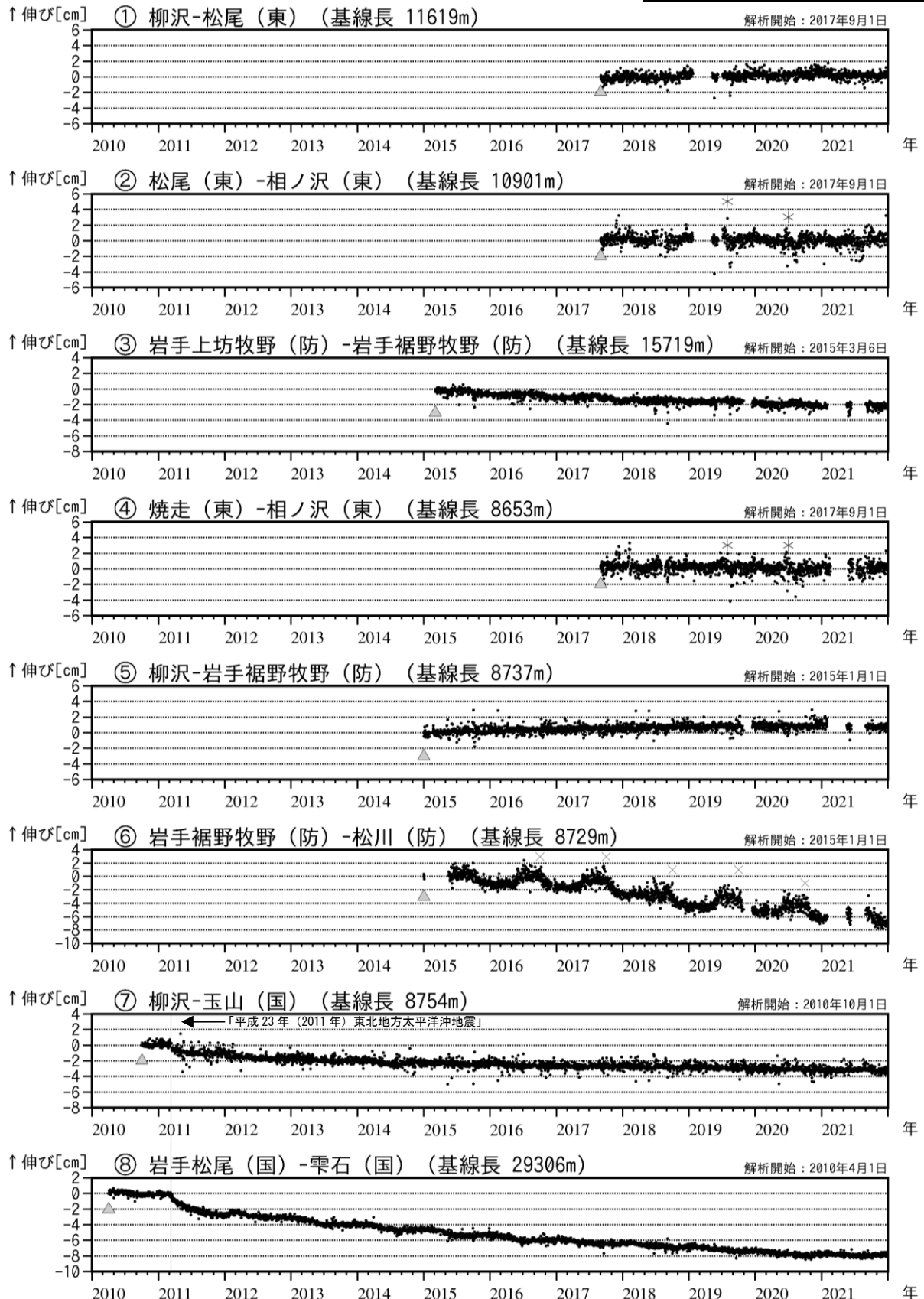


図3 岩手山 GNSS 基線長変化図 (2010年4月～2021年12月)

- ・「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑧は図5のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・国)は国土地理院、(東)は東北大学、(防)は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ×: 松川 (防) 観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- *: 相ノ沢 (東) 観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- ▲: 解析開始を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

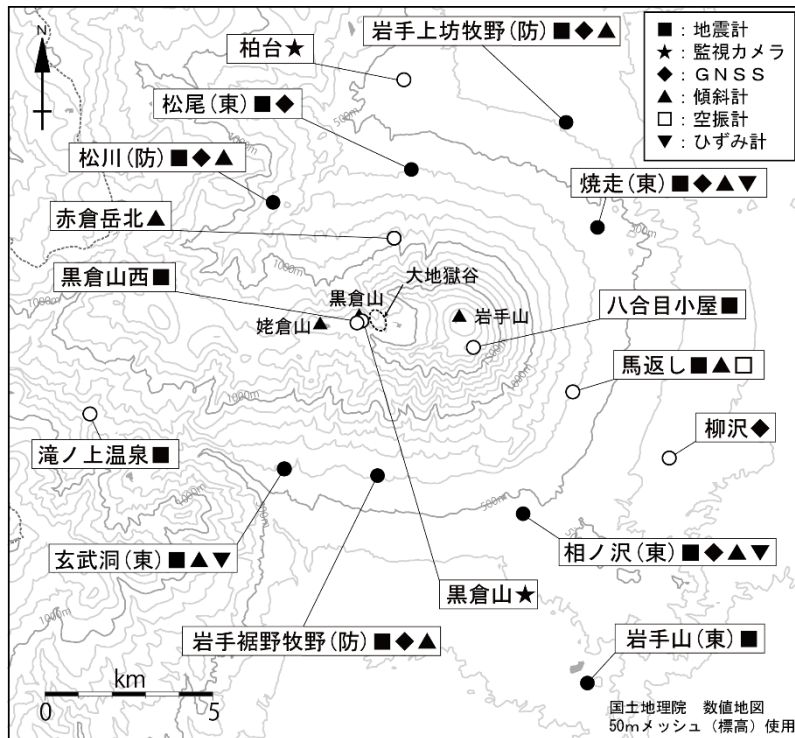


図4 岩手山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

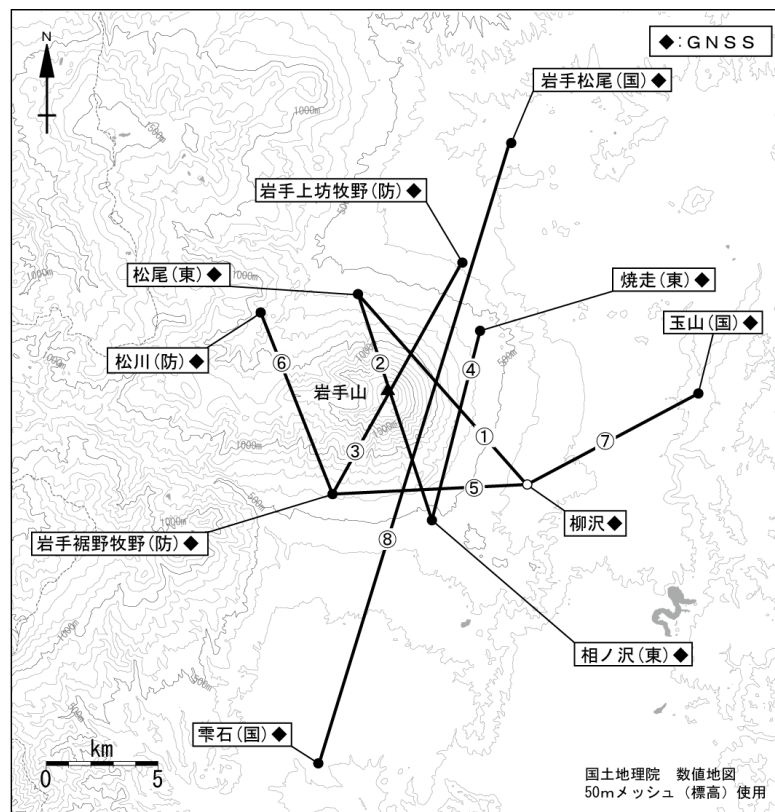


図5 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学

（防）：防災科学技術研究所